子どもたちの幸せのために、そしてともに喜び合うために。『マリア・モンテッソーリ幼稚園』の魅力

子どもの自主性を尊重し、自立の精神を培うという理念のもと、みんなが一緒に学び、成長していく「マリア・モンテッソーリ幼稚園」。

そこで働く先生たちは日々、子どもが自ら成長する力を信じて、子どもを見つめています。今回は、田中ポール園長に、マリア・モンテッソーリ幼稚園の運営にかける想いや保育の様子、園の魅力について、詳しくお話を伺いました。

=====
＜お話を伺った人＞
マリア・モンテッソーリ幼稚園　園長　田中ポールさん
大学卒業後、一般企業を経て、マリア・モンテッソーリ幼稚園に入職。
モンテッソーリ教育の資格を取得し、2010 年より園長を務める。
=====

子どもたちが自ら成長する機会を引き出す

――　マリア・モンテッソーリ幼稚園に初めて来た人は、子どもたちの様子を見て驚かれると聞きました。

「こんなにいろんなことを、好きなようにやらせるんですか？」と驚かれることがありますね。もちろん個人活動の時間と、みんなで一緒に活動する時間、両方ありますが、一人ひとりが満足感を得られるだけの自由時間をとても大切にしています。子どもは大人から教え込まれて成長するのではなく、自分自身の具体的な経験の積み重ねによって、自ら成長していくからです。

また、自由な時間が十分にあって満足していると、集団で活動をするときに、素直に先生の指示を聞けるんですよ。私が聖書の話をするときには 20 分ほどかかる場合もありますが、3 歳前の子でもずっと聞いていられるんです。それで「小さな子たちが、こんなに落ち着いて話を聞けるなんて」って、また驚かれます（笑）。

――　子どもの自主性を尊重することが基本なんですね。そのために先生方はどのように活動されているのでしょうか。

子どもは本能的に、成長欲求を持っています。それは一人ひとり違うものだし、どんどん変化していく。ですから先生たちは、この子は今何がしたいのか、何に興味があるのかをよく観察して、子どもが求める環境や活動を用意してあげます。大人の知識を教えるのではなくて、子ども自身が持っている引き出しを、先生がジャンジャン開けてあげるイメージです。

そして子どもが昨日より成長した部分を、具体的に認めてあげます。例えば、3 歳の子が「先生、体操服が着れたよ」って見せに来たら、その日初めて 1 人で着られたのか、それだけでなく前後を間違えずにきちんと着られたのか。昨日と比べてどう成長したのかをわかって、認めてあげるんです。

――　一人ひとりの発達の段階に合わせて、丁寧に寄り添われているんですね。

全員が一斉に同じペースで成長するなんて無理じゃないですか。例えば4月生まれの子と3月生まれの子は発達の具合がかなり違います。なのに突然「今日はみんなでハサミを使いましょう」って言っても、できない子がいて、プライドが傷つくこともあるわけです。そこで部屋の中に、ハサミを使った活動ができる場所を用意しておく。子どもそれぞれのペースで、ハサミの経験を積めるようにしておきます。

そうやって一人ひとりに寄り添っていると、子どもたちは自己肯定感が高まり、チャレンジ精神が養われてきます。その結果として、成長が目に見える形になって現れることがあります。

例えば体操の時間に、年長さんは卒園するまでに逆上がりができるようになる、という目標を立てますが、毎年ほとんどの子ができるようになるんです。これは幼稚園児にとってすごいことで、子どもたち自身や保護者の方が大きな喜びを感じるのはもちろんですし、先生たちもすごくやりがいを感じていますね。

成長を感じられる活動としてもう一つ、「お話調べ」というものがあります。まず園で、先生が子どもに物語を語って聞かせます。そして子どもは帰宅してから親にどんな物語だったかを話し、親にはそれを一言一句漏らさず書き留めてもらうんです。

その結果を見ると、先生の言葉を断片的に覚えている子もいれば、先生が言ったとおりに再現できる子もいます。さらに成長すると物語の内容を理解して、意味を変えずに自分の言葉で説明できるようになるんですよ。

言葉というのは抽象的な思考ですから、幼い子どもには難しいものです。しかし日々一人ひとりの成長段階に合わせた活動をしているうちに、子どもたちが自ら学び、成長しているのがわかります。

子どもを尊重し、先生を尊重する

――　この幼稚園ならではの教育内容がとても魅力的ですね。田中園長ご自身が、この幼稚園を卒園されていて、このような教育を受けてこられたそうですね。

ここはもともとメリノール宣教会の故マーク・テニアン神父様が設立したカトリック幼稚園です。母は神父様と共に設立当初から関わってきました。私が入園したのは、母がアメリカで学んだモンテッソーリ教育を園に導入したあとの時代です。ですから私自身、モンテッソーリ教育を受けてきました。母は常に「あなたはできる。あなたはできる。」って前向きな言葉だけをかけてくれて。それで、どんな場に出ても自分の意見が言えるように育ちましたね。自己肯定感の塊ってよく言われます（笑）。

私も元から子どもが大好きなので、学生時代は園児と一緒に遊んだり、運動会を手伝ったり、よくしていました。この幼稚園はもう、私の家みたいなものなんです。

ですからいずれは園を継ぐつもりでしたが、いったん一般企業に就職した上で、まずは事務長というかたちで園に勤めることになりました。

ただ、子どもと触れ合う経験はしてきていても、教員免許を取っていませんでしたので、事務をやりながらモンテッソーリ教育の資格を取ったんです。その後、副園長を経て、園長になりました。私の中では、こうなるのが自然な流れだったと思います。

――　園長ご自身がモンテッソーリ教育を受けて育ち、今も実践されているわけですが、他の先生方はどのように学ばれるのでしょうか？

最初からカトリックやモンテッソーリの知識を持っている必要はないんです。もう、真っ白な状態で来ていただいて、働きながら学んでもらえれば。子どもが自分自身で経験して学ぶように、先生たちも日々、この園のやり方を実践して成長しています。ですからスキルや経験がなくても大丈夫です。

当園のやり方を積極的に取り入れて、柔軟に学んでいただきたいですね。

私は園長として、子どもの自主性を尊重するのと同様に、先生たちの自主性も尊重したいと思っています。いろんな行事のたびにさまざまなプランが出てきますが、ほとんど口出ししていません。困っていればもちろんアドバイスしますが、先生たちが頑張ってやっているんですから、基本的におまかせしています。先生たちは、毎日子どもたちを見て、今何が必要かを一生懸命考えてくれている。私は園長として、先生たちのその思いを認めることが大切だと考えています。

「子どもたちの幸せのために」ということを第一に

――　先生の中に、卒園生や園児の保護者の方がいらっしゃるとお聞きしました。

自分の子どもをうちに通わせていた保護者の方が、卒園後に先生として来てくださったり。他にも、中学生のとき職場体験学習で 3 日間だけうちに来た子が、ここで先生になりたいと思って、短大に入って、教育実習にも来て、うちの先生になったりとか。

――　すごいですね。保護者の方も先生方も、この園の想いに共感されているんでしょうね。

ここで働いた先生は、ひとりの親としても、自分の子どもをこの幼稚園に入れたいと感じてくれるようです。お子さんが生まれると、実際にこの幼稚園に入園を希望されることがあり、現役で働いている先生のお子さんが園児として通っている場合もあります。もちろん自分の子どもの担任をするといった配置はしないようにしていますが。ちょっと珍しいですよね。

先生たちが、親の立場からもこの園の教育の価値を感じているんでしょうね。そしてなにより、一緒に働く先生たちが、お互いに信頼しあっていることの現れだと感じています。

――　最後に、これから入園してみたいという保護者や子どもにお伝えしたいことはありますか。

マリア・モンテッソーリ幼稚園は「子どもたちの幸せのために」ということを第一に考えています。子どもをよく見て、その子が今何を求めているのかに気づき、必要なものを用意してあげる。それによって子どもが成長したときには、先生も一緒になって、我がことのように喜べるんです。それがこの園に通っていただく最大の魅力だと思います。

（文・編集／エドゥカーレ）